専大スポーツ No. 283

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からログイン）でご確認ください
専大スポーツweb（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

アーチェリー・全日本学生個人選手権

心技充実 星が初優勝

17年ぶり2人目の快挙

「全日本選手権」に照準

▲ トロフィーを手に喜びをかみしめる星

アーチェリーの全日本学生個人選手権が、9月8日から10日まで、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場で開催された。星達也（経営2・馬頭高）が決勝で日体大・山本を107―105で降し、初優勝を勝ち取った。専大勢の優勝は17年ぶり2人目の快挙。

予選では30位と苦しんだが、1回戦で予選3位の近大・西村を破ると、勢いに乗り、頂点に立った。「優勝できると思っていなかった。インターハイではいつも決勝ラウンドで負けていたので、今回の優勝はとてもうれしい。試合では、矢がいつもより的の中心、またはその近くに当たってくれた。今考えると、運が良かったのだと思うが次は自分の力で勝ちにいきたい」とコメント。"運も実力のうち"という言葉もあるが、星は自らに厳しい実直な姿勢を見せた。また、優勝者として追われる立場となったことについては「初めて『肩書』ができてしまった。プレッシャーはあるが、アーチェリーは精神面が大きくかかわる競技なので、気負わずに挑戦していきたい」と話した。

国体では10位となり、次に迎えるのは10月23日から25日までの全日本選手権。昨年は31位だったが、今年はこの勢いでベスト8入りを狙う。今後の活躍から目が離せない。

（土屋　杏有美・文1―写真も）

バドミントン・東日本学生選手権

女子単で田村が初優勝

団体3位　全日本学生へ出場

▲ 井上との専大対決を制し、優勝した田村（撮影・庄司）

東日本学生バドミントン選手権が8月30日から9月6日まで、宮城県の仙台市体育館ほかで行われ、女子シングルスで田村千秋（文3・昭和学園高）が初優勝を果たした。井上春奈主将（商4・埼玉栄高）は2位。ダブルスは井上・穴井友喜（商3・青森山田高）ペアが3位、団体でも3位に入賞した。

この結果、団体のほかシングルス3人、ダブルス2組が全日本学生選手権（10月17～22日、滋賀県）の出場権を得た。

田村は、5回戦で法大・皆川を相手にセットカウント2―1と競ったほかは2―0のストレートで勝ち進んだ。決勝では、ここまでオールストレート勝ちの先輩・井上と対戦し、2―1で勝利した。「今大会は4年次生と対戦する機会が多く、相手が勝ちたいという強い思いが伝わってきたので、こちらも気持ちで負けないように頑張った。今後はダブルスでも勝てるようにしていきたい」と話した。

関東大学秋季リーグ戦

惜敗、春と同じ3位

関東大学バドミントン秋季リーグ戦が9月12日から21日まで、日体大米本記念体育館で行われ、専大は春季リーグ戦同様、3勝2敗の3位で大会を終えた。

第2戦で早大に2―3の僅差で敗れたものの、第3、4戦で筑波大、法大に4―1で快勝。勢いに乗ったが、優勝のかかった最終戦で日体大に惜しくも敗れた。

井上主将は「自分にとって学生最後のリーグ戦だったので優勝を狙っていたが、春季リーグと同じ結果になってしまった。インカレでリベンジします」と意気込みを話した。

（大津　智世・経営2）

テニス・関東大学リーグ戦（女子）

全日本大学対抗王座決定試合に

2位で7年ぶりの出場

▲ 準優勝を遂げた女子メンバー

女子の関東大学テニスリーグ戦が9月10日から19日まで、東京都の有明テニスの森公園で行われ、3勝2敗の2位となり、7年ぶりに全日本大学対抗テニス王座決定試合の出場を決めた。

初戦は日大に勝利したものの亜大、早大に連敗し、厳しい状況となった。しかし、接戦を制し筑波大から勝ち点を奪うと、東洋英和大に5―2と危なげない試合を見せ、リーグ戦を終えた。

松山芳主将（経営4・静岡市立高）は「16人全員で戦うことができた。王座では早大を倒せるように頑張りたい」と意気込みを話し、佐藤雅幸監督は「学年ごとにしっかりと役割を果たすことができた。最後までもつれた大会だったが、チームとして素晴らしかった」と振り返った。

男子の関東大学リーグ戦（2部、9月9～25日＝専大伊勢原テニスコートほか）は4勝1敗の2位で入れ替え戦へ。1部5位の明大相手に、最後まで粘り強いテニスを見せたが、2―7で敗れ2部残留となった。（菅原亜美・文2＝写真も）

漕　艇・日本カヌースプリント選手権

短距離で強さ発揮

カヤック200㍍

シングル渡邉、ペア真鍋・和田が準優勝

フォアは3位

▲ 健闘したカヤックフォア（左から真鍋、渡邉、和田、松田）

日本カヌースプリント選手権が、9月10日から14日まで、石川県の木場潟カヌー競技場で行われた。

カヤックシングル（K―1）で、渡邉秀幸（文4・富士河口湖高）が200㍍で準優勝、短距離での強さを発揮した。

渡邉は、「全日本学生選手権では不発に終わったので、今大会に向けて集中して練習した。得意の短距離で自分の力を十分に発揮できた」と話した。

カヤックペア（K―2）では、真鍋達朗主将（商4・久美浜高）・和田恭平（商3・二本松工高）組が200㍍で準優勝と健闘した。また、カヤックフォア（K―4）では、真鍋・松田雄幸（経営4・谷地高）・渡邉・和田組が1000㍍で4位、500㍍で4位、200㍍で3位と上位に入賞した。

（森住　綾・文2）

グレコ96kg級　フリー74kg級

中谷、江藤が準優勝

江藤は最多フォール賞

レスリング・全日本学生選手権

▲ 積極的に攻めた中谷（上）と、負傷をおして戦い抜いた江藤（撮影・庄司）

全日本学生レスリング選手権が9月14日から17日まで、駒沢体育館で行われ、グレコ96kg級で中谷月明（文4・添上高）とフリー74kg級で江藤公洋（経営3・福島高）が準優勝した。また、グレコ74kg級の上迫博仁（経営4・沼津城北高）、フリー84kg級の鈴木聖二（経営3・岐阜工高）、同96kg級の馬場祐太朗（経営4・島原高）が3位に入賞。江藤が最多フォール賞を受賞した。

中谷は「今年は優勝を狙っていたので悔しい。次の大会で結果を残せるように頑張ります」と話し、江藤は「初めて決勝まで進めたので、今回の経験を次につなげたい。最多フォール賞はうれしい。準決勝で強い相手からフォールが取れたことが大きかった」と話した。

学生王座はベスト8

9月25日、駒沢体育館で行われた全日本学生王座決定戦（フリースタイル）は、昨年の3位より順位を落とし、ベスト8に終わった。

1回戦・中大戦は4―3と接戦をものにしたが、2回戦・早大戦は96kg級で鈴木が奮闘をみせたものの、1―6で完敗した。

荒木田が世界へ

9月21日から27日まで、デンマークのヘルニングで行われた世界選手権にフリースタイル120kg級の荒木田進謙（経済4・光星学院高）が出場。初戦でトルコのカラ・レセプ選手にフォール負けを喫した。

（大津）

「専大スポーツ」増刊号 第2号刊行

生田、神田両キャンパスで配布中

専スポ編集部員が選手たちの思いをつづったフリーペーパーを刊行。